

こころの コラボレーション



スクールサポーター
(臨床心理士)
小林 真理

もっと早く知っていたら

「知ってたなら、もっと早く教えてほしい」
今はもう卒業した子どもの話ですが、その子どもが中学2年生だった時に、ポロッと涙を流しながら言った言葉です。

一見すると友達とワイワイしているような、どこにでもいるような子どもでした。しかし小学校の高学年のころから対人関係がうまくとれなくなり、教室から足が遠のいてしまうようになりました。登校しても保健室や図書館を居場所にしたがり、担任の先生をはじめ、様々な先生の支えを受けて、なんとか登校している状態でした。保護者はこういった状態になった早い段階から、スクールサポーター(以下SS)の相談にみえていたのですが、本人は「何を相談したらいいのかわからない」と気持ちが悪くない様子でした。そんなある時、

保健室で本人と養護教諭とSSでたわいもない話をしていくと、「相談して今度できるの?」と言いだしました。実際に相談を始めると、本人が困っていること、つまづいていることが徐々に浮き上がってきました。その中から、この子が「みんなに合わせようとするけど、かみ合わせずに疲れてしまうのではないかと、周りから誤解を受けやすいのではないかと、やってもうまくいかないことが多くて自信にながっていかないのではないかと」と考えられるようになりました。

こういった仮定のもと、保護者の方に「本人の得意・不得意がわかる検査などもあるから、やってみると何か具体的な工夫ができるかもしれない」と検査を受けることについて提案しました。検査というところ「そのあとどうなっちゃうのだろう」「レットテルを貼られるのではないかと」といった不安や心配もあったのだと思います。もちろんそうではないこと、あくまでも工夫をするためのステップであることは説明しているのですが、実施については強制できるものではありません。家庭でどのような話し合いがあったか、或いはなかったのかはわかりませんが、この時は「時期」ではなかったのだ

しよう。結局検査は行われないうま相談を続けていく中で、なんとなく教室に行けるようになり、卒業と中学入学を迎えました。

最初のうちは新しい生活を楽しくしている様子がありましたが、中1の途中から登校がままならなくなり、保護者の方から相談があり、はじめはSSが学校にいる日、それから相談室に登校ができるようになり、登校できるようになったとはいえ、今後どういう見通しを立てるのか、再度検査について提案してみました。今度は家庭でしっかり話し合ったようので「本人がやりたいって言うているので」と検査申込書が届きました。

検査の目的について「自分のことを知るため」そう言っていて、はじめから最後まで真剣に取り組み、「自分も結果を知りたい」と言って検査を終りました。

結果は、本人の得意・不得意や努力のポイントがハッキリしている内容でした。これについて「〇〇さんが頑張ったことなかつたわけじゃないけど、頑張ったんだね。頑張るポイントがちょっとズレたのかもね。苦しかったね」と伝えると、悔しそうに冒頭の言葉を絞り出したのです。それ以降、その結果をもと

に、対人関係面での工夫のポイント、学習面での工夫のポイントを組みあげ、家庭とも学校とも共有しながら本人の過ごしやすい環境を探っていききました。卒業する頃には笑顔で学校生活を送れるほど自己理解がすすみ、周りともうまくとけこみ、学習も具体的な工夫をしながら過ごしている様子が見受けられました。卒業後何度か苦しくなると「どうしたらいい?」と連絡をくれることもありましたが、今はどうしているのでしょうか。連絡がないのはいいことですが、このケースは私にとっても衝撃的な学びの機会となりました。

何事にも時はあるものですが、子ども自身が「自己理解」をするときほど、伸びが期待できることはありません。そして、苦しんでいる子どもにとって「なんでものか知りたい」「できるようにになりたい」と思うことは当然で、家庭や身近な職員がその思いを上手に汲んで寄り添って支えていくための理解が大切なのです。親の思いも大事ですが、周りの目を気にし過ぎるのではなく、子どもが自分自身に向き合おうとすることを応援できる家庭、周りの目になっていけないということです。

絶滅が危惧される 植物 ⑧

植物園では、絶滅が危惧される植物の保存にも取り組んでいます。4月中旬〜5月上旬、黄色の花をつけるトサミズキについて紹介します。



トサミズキ

四国の山地の岩場などに生育する日本に固有な落葉低木です。しばしば観賞用に植栽されますが、環境省レッドデータブック(2014)で準絶滅危惧種に指定されています。自生地の生育条件の変化によっては絶滅危惧種に移行するといわれています。植物園では、種子繁殖による増殖を試み、その発芽特性などの調査をおこなっています。

【問い合わせ先】
植物園 ☎48-3337